

留学を終えて

岐阜高等学校 後藤 喜士郎（アメリカ）

私の留学のために多大なご支援を頂き、ありがとうございました。先月、無事に一年の留学期間を終えて帰国しました。おかげさまでこの一年間に、とても貴重な経験をすることができました。

私はアメリカ、ミネソタ州のダルースという、人口 8 万人ほどの小さな街に留学をしていました。ダルースは、スペリアル湖という世界一大きい淡水湖の最西端に位置する町です。至る所に公園があり、自然豊かな町でもあります。

さて、私がダルースに到着したのは八月の半ば頃で、それから 1 ヶ月ほどは学校が始まりませんでした。その間、ホストファミリーと周辺の素晴らしい自然を満喫して過ごしました。ホストファーザーはマウンテンバイクが趣味で、よく一緒に丘の上の木々の間をぬって、サイクリングに連れて行ってくれました。ホストブラザーとは川泳ぎを楽しみました。

やがて学校が始まりました。学校に知っている人が誰もおらず、いきなり日本とは全く違う学校のシステムに遭遇し、最初はついていくことができませんでした。広い学校だったので、何がどこにあるのかわかりません。勇気を出して誰かに話しかけてみるのですが、私の英語力が不十分なせいか、親切な対応をしてもらえないことも多く、最初はとにかく大変でした。しかし家に帰ればホストファミリーが優しく接してくれて、いっしょに夜ご飯を食べながら話をするのは至福のひとつでした。まだ私の拙い英語に一生懸命耳を傾けて聞いてくれました。

ダルースは北海道の北端に位置するほど緯度が高いので、夏はとても涼しいのですが、9 月になるとすぐに紅葉が始まり、10 月の半ばには町中どこを見ても夏とは景色が一変します。特に緯度が高い分、太陽が低い場所に見えることもあり、木々の間から漏れる日差しはまさに金色に見えます。

オーケストラのクラスに参加していたこともあり、幸いその頃には順調に顔見知りが増えていきました。友達を通じてクロスカントリーチームに入りました。坂道を 10 キロ走るなど練習は大変でしたが、部員が 100 人も居たのでたくさんの人と知り合うことができました。

10 月ごろには、ロータリーで同じ地区にいる留学生とのキャンプがあり、タイ、チリ、ドイツ、デンマーク、ブラジルなど世界中から来た留学生と時間を共に過ごし、友達になることができました。

11 月になると雪が降り始め、クロスカントリーのシーズンも終わりました。夜にはマイナス 10 度を下回る日もあり、学校が終わって外に出ると息が止まりそうでした。

12 月に入るとロータリーの意向により、2 軒目のホストファミリーの家へ移動すること

が決まりました。一軒目の家に馴染んでいた私は移りたくありませんでしたが、色々な家庭で過ごすことも良い経験になると肯定的に捉え、引っ越すことになりました。

新しい家には同い年のホストブラザーと、2歳下のホストシスターがいました。ホストブラザーとは卓球をしたりゲームを一緒にしたりしました。ホストシスターは日本が好きだったので、日本語を教えてあげました。しかし、このファミリーと馬が合わないことも多く、辛いと感じることもありました。学校でも思うように友達ができないことや、時期が合わずスキーチームへ入れなかったことも重なり、強い孤独感を感じるようになりました。学校に入りたての頃に話しかけてくれていた友達も目を合わせてくれなくなったり、同じ机に座っていた友達が他の机へ移動したりと、とにかく辛かったです。学校では一人ぼっちで、家でもホストファミリーに馴染めず、疎外感を感じるという状況が続きました。ひどい時は一日一言も発しない日さえありました。

そんな中、私はひたすら自分の将来について自問自答を繰り返しました。そして私はアメリカの高校を飛び級して卒業し、2023年の夏からアメリカの大学で建築を学ぶこと、将来建築家になることを決意しました。辛かった時期に何か自分に打ち込めるものができたような気がしました。自分で勉強しながら行きたい大学を調べ、申請しました。ロータリーや学校のカウンセラーに、留学生で卒業することはできないと言われましたが、何度も掛け合ったところ承諾してくれました。普段の生活では性に合わないと思っていたホストファミリーでしたが、私の進学のことは応援してくれて、とても大きなサポートになりました。

毎日英語の勉強を続けていたことが実を結び、周囲の人とコミュニケーションを取れるようになっていき、2月には友達にスキーにつれて行ってもらいました。それがきっかけで周りに少しずつ友達が増えていきました。オーケストラの友達の中でも特にザイアンという子と仲良くなり、週末に色々なところに連れて行ってもらいました。中でもザイアンの家族とミネアポリスへ一緒に旅行へ行ったのがとても楽しかったです。

この頃にアイオワの州立大学に合格し、アメリカの高校を卒業さえすれば、2023年の夏から進学できることになりました。卒業するためにはある一定の単位を取らなければならず、後期にはオンラインの授業も合わせて10クラスほど授業を取っていました。

4月にはオーケストラでニューヨークへ旅行をしました。旅行へ行くために友達に習ってファンドレーザーでコーヒーを売り、近所の人たちの協力で4万円ほどの収益があり、ニューヨークへ行くことができました。バスで22時間もかかりましたが、自由の女神、ブロードウェイのミュージカル、ニューヨークフィルハーモニーオーケストラを見ることができたのは一生の思い出です。5日間の旅行を通してさらに友達の輪が広がりました。友達が増えることによって、自信もつき、それに伴って英語力もさらに上達しました。

さて、4月は三軒目のホストファミリーの家に移った月でもありました。このファミリーは一人暮らしのメアリーさんというおばあさんで、アパートの一室で二人きりの生活でした。この頃私は、勉強、ヴァイオリン、テニスに加えて週末に友達と遊ぶことも欠かせなかったため、とにかく忙しい日々をおくっていました。メアリーさんがそんな私の日常を尊重

してくれたおかげで、とても充実した時間を過ごすことができました。夜ご飯の後には手作りアイスとクッキーを出してくれて、二人で語り合いました。

5月にはずっと行きたかった学校主催のダンスパーティー（プロム）に誘ってもらいました。ザイアンとスーツを買いに行き、意気揚々とパーティーへ出かけました。友達の家にご飯を食べに行ったり、誕生日会に行ったり、ローラースケートに行ったりと、楽しい日々が続きました。オーケストラの最後のコンサートでは、ソロを弾かせていただき、客席からスタンディングオーバーションをもらいました。コンサートの後に、それまで学校で話したことのない子も声をかけてくれて、とても嬉しかったです。

アメリカの学校は6月の初めに終わるので、コンサートが終わってからは、毎日夜遅くまで勉強し、終業日の数日前になんとか全ての卒業に必要な課題とテストを修了して、アメリカの高校を卒業しました。今までのホストファミリーと、ロータリーの人も学校のカウンセラーも、私の卒業をととても喜んでくれました。

私のアメリカでの10 か月はこれまでの人生で一番大変でしたが、少し成長できたと思います。アメリカで過ごして最初に学んだことは、周りの人々との関わりがあってこそ、自分があるということです。日本では友達や家族や周りの人が居たから毎日が楽しかったし、家族や友達と過ごす時間はかけがえのない時間だと感じることができました。留学を通してそしてたくさんの人に出会い、自分の進む道を見つけることができました。改めて、お世話になったすべての方々に感謝致します。



